

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		学校関係者の意見	
安心・安全な学校づくり	(全校レベル) III) 各種の災害に備える防災対策の充実 <下位組織レベル> ①校内の防災対策の見直し・検討をし、必要な訓練を行う。	評価指標 ①避難訓練に、従来までにはなかった内容を追加して訓練を実施する。	評価指標の達成度 ①避難訓練に、従来までにはなかった内容を追加して訓練を実施できた。	総合評価 (評定) B (所見) ①従来のクラス担任の対応による避難訓練に加え、時間を設定し、授業者での避難訓練を実施し、様々な課題に気付くことができた。 ②校内の防災用品について、改めて確認することができた。 ③本校の職員へのアンケートにより、本校が「指定避難所」に指定されていることについては知っている職員が87% (アンケート回答数のみ) であったが、「指定避難所」の開設のための、「避難所開設のためのアクションカード」の存在については、知っている本校職員は42% (アンケート回答数のみ) という結果であった。	別紙 ①次年度も授業者対応での避難訓練を実施する。今年度課題としてあげられた避難経路の確認、周知や避難に個別の支援を必要とする児童生徒への対応の確認と周知、特別教室へのヘルメットの配備等、より実際に即した訓練になるよう進めていく必要がある。 ②校内の防災用品について、次年度も引き続き確認を行うとともに、不足品や新たに設置したものが良い物について検討をしたい。 ③本校が「指定避難所」になっていることについて、次年度も引き続き本校職員に周知する機会を持つとともに、今年度実施した「防災地域連携協議会」を開催し、地域と連携した取り組みを継続していく必要がある。
		活動計画 ①ヘルメットの活用を継続するとともに、より実際の場面に沿った訓練ができるように、教員配置や場所等を考慮した訓練を行う。	活動計画の実施状況 ①ヘルメットを使用し、担任対応だけでなく、授業者での教員配置や場所での訓練を実施した。		
		②校内の防災用品について、リストに沿って点検を行う。	②校内の防災用品について、リストに沿って点検を行った。		
		③災害時の本校の役割等について、本校職員の理解を高める。	③災害時の本校の役割等について、本校職員の理解を高めることができた。		
		活動計画 ②校内の防災用品について、長期休業中等にリストに沿って点検を行う。防災用品の不足や故障、保存水等については賞味期限の確認を行う。	②校内の防災用品について、防災地域連携協議会に向けてリストに沿って点検を行った。		
		③本校の避難所としての機能や避難所開設の初動としての「避難所運営アクションカード」について、昨年から継続して本校職員に伝える機会を設ける。また、防災地域連携協議会での地域からの意見等についても、合わせて本校職員に伝える。	③本校の避難所としての機能や避難所開設の初動としての「避難所運営アクションカード」について、職員会議で伝える機会を設けた。本校職員にアンケートを行い回答を得た。		

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		学校関係者の意見	
安心・安全な学校づくり	(全校レベル) II) 事故防止、感染症予防対策の徹底 <下位組織レベル> ①教務課が担当する行事の実施方法や内容について、感染症予防対策の新しい規定に沿って見直しを行う。	評価指標 ① 教務課が担当する行事のうち、特に活動計画における「行事について、感染症予防対策の新しい規定に沿って計画・実行・確認・改善を行うことができる。	評価指標の達成度 ①感染症を予防しつつ、どのくらいの集団であれば、また、どのような内容であれば児童生徒の理解が進むのかということを確認し、計画・実行・確認を行った。	総合評価 (評定) B (所見) ①新型コロナウイルス感染症対策で実施した受付の分散、参加者の分散、行事会場の換気を今年度も継続することによって、感染症対策を継続できるよう取り組んだ。参加者の分散は、単に人数で割るのではなく、小学部と中・高等部、あるいは外部生と内部生といったように、行事の目的によって分散させることができた。	別紙 ①学校見学会は、校内教員への周知にやや課題が出たので(目的の共有、運営上の課題、案内の方法や内容について来年度、再度検討を行う予定である。また、4年ぶりに行った家庭訪問についても、保護者方から様々なご意見をいただいたので、改めて目的の共有、個人懇談代替を含めた柔軟な実施方法を検討していきたい。
		活動計画 ①-1授業参観・学校見学会・学校体験会・教育実習・卒業式において、新型コロナウイルス感染症対策中の内容とそれ以前の内容を対比させ、現在の児童生徒の実態に応じた必要な教育活動を計画・実行する。	活動計画の実施状況 ①-1各行事において再度見直しを行った。特に学校見学会については、在籍児童・生徒の学習姿勢を見学できる日程に変更したり、オープンスクールを再開し来校学年の幅を広げたりするなどの対応を行った。卒業式については、校内で協議し、儀式的活動に参加する機会が多くなる高等部は全員参加とすることで計画を準備している。		
		①-2各行事の実施後、関係した学部や課にアンケートあるいは聞き取りを行い、来年度に向けての改善点をまとめる。	①-2各行事の実施後のアンケートや聞き取りでは、概ね好意的な回答が多く、児童生徒の実態に応じた行事的教育活動ができていないかと促している。		
多様性を育むキャリア教育の展開	(全校レベル) II) 卒業後を見据え、成長に応じた指導内容の精選 <下位組織レベル> ①キャリア教育の視点から、将来必要な力を養うための教育課程・教育内容の見直しを行う。	評価指標 ①各学部の課題をあげ、その70%について改善案をまとめ、8月中旬に次年度の教育課程を作成する。	評価指標の達成度 ①各学部でアンケートを実施し、課題を洗い出した。アンケートで出た意見に対しては、学部を超えて情報交換を行い、70パーセント以上、今後の方針を打ち出すことができた。8月中旬に次年度の教育課程を作成することができた。	総合評価 (評定) B (所見) ①教育課程については、近年大きな変更を求めない生徒が増えたとともに、クラスや学年を超えた学習グループ(授業グループ)を設定することにより、卒業後に向けた個々のニーズに応じた学習活動を設定することができている。	別紙 ①小学部の児童数が急激に増えたり、高等部で発達程度の比較的若い生徒が増えたりと変化が生じている。変化している状況に応じた教育課程を編成するとともに、指導内容の質を追求するため、来年度は教務課として個別の指導計画様式見直しを予定している。
		活動計画 ①-1小学部において、授業グループの編成や学習内容について、今年度実施しての課題点をまとめ、次年度に生かす。	活動計画の実施状況 ①-1前年度末に学習グループについては学期で検討したものをもとに4月からの学習グループを編成した。年度途中に、適宜学習グループを見直しを行った。9月と12月に学習グループや授業の運営に関するアンケートを実施し、課題点をまとめ、出てきた課題点を踏まえて次年度の学習グループについて検討する。		
		①-2中学部において、生徒の実態に合わせた授業グループの編成や学習内容について検討する。	①-2前年度末に、実態把握(聞き取りやアセスメント)を行い授業グループ案を考えた。4月は試験期間とし、グループ間で話し合いをし、調整を行った。学習内容については、アンケートを実施し検討を行った。		
		①-3高等部において、昨年度変更した内容について検討する。今年度実施しての課題点をまとめ、次年度に生かす。	①-3昨年度変更した内容に対する問いを含めた2回のアンケート結果を基に教育課程について検討を行った。また、就業体験施設実習の結果から普通科のコースを超えた作業学習の希望が出たため、後期で希望する作業が実施できるよう教員配置等の調整を行った。		

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった